

## メッセージ

校長 下町壽男



こんにちは。花巻北高校のホームページを訪れていただきありがとうございます。ごぞいます。

本校は、昭和6年の開校以来、今年で創立86年目を迎える、県内屈指の歴史と伝統を誇る高校です。昨年度3月に230名の卒業生が巣立ち、同窓生の数が20,178名となり、2万人の大台を超えました。そして今年度は、新たに245名の新入生を迎えました。生徒718名、教職員60名のフルメンバーと、同窓生、保護者、地域が一体となって理想の殿堂を求め、飛躍し続けていきたいと思ひます。

校門をくぐったところに見える、全国での活躍を記す多くの垂れ幕からもわかるように、本校は運動部、文化部とも毎年素晴らしい実績をあげております。

昨年度は、弓道、アーチェリー、剣道がインターハイ出場を果たしました。剣道部は、新人大会で7年ぶりの団体優勝を果たし、全国選抜大会への切符を手に入れています。

「広げよう感動、伝えよう感謝」(本校生徒の作です)のスローガンの下、昨年度開催された希望郷いわて国体においては、アーチェリー、陸上、剣道、ハンドボールの4種目に5人の生徒がオール岩手の選手として活躍し、岩手の躍進に大いに貢献しました。なお、希望郷いわて国体で岩手県選手団の選手宣誓を努め、競歩での優勝を果たした本校同窓生の高橋英輝選手は、国体の2ヶ月前に行われたリオ・オリンピックの日本代表として出場を果たし、本校生徒たちに大いなる勇気と希望を与えていただきました。

文化部では、吹奏楽部が8月に広島で行われた全国高総文祭に出場するとともに、岩手県吹奏楽コンクール12年連続金賞という金字塔を打ち立てました。また、今年度の第41回全国高等学校総合文化祭には、放送部が朗読部門で出場することが決まっております。そして、文芸部においては、第31回全国高等学校文芸コンクール短歌の部で最優秀賞を受賞し、全国の頂点に輝く快挙を成し遂げました。

今春の卒業生の進学状況は、県内唯一の京都大学合格者を輩出した他、東北大学11名、岩手大学34名を始めとする国公立大学合格者実人数144名(合格者延人数152名)、早稲田大学、慶應義塾大学など私立大学延合格者157名(3月14日付)という成果を挙げ、東北有数の進学校としての評価を一層高めることができました。

また、県内外から注目されている「総合的な学習時間」における生徒の自由研究活動の取組みや、被災地との交流やボランティア活動、マルカンプロジェクトに代表される地域復興への働きかけなど、生徒の主体的な学びを促進、支援する体制を昨年度からより重点的に行っていることも特に記しておきたいと思ひます。

更に、昨年9月に、念願のASMSA(アーカンソー数理芸術高校)との姉妹校提携を結び、継続的に本校生徒をホットスプリング市に派遣する仕組みを作りました。早速今年度は11月に、4名の生徒の短期派遣を実施する運びとなっております。

先輩から脈々と引き継がれている本校の「桜雲臺精神」とは、雲とみまがうばかりの桜の花のように、大きな志と高い理想をもって、郷土に貢献するという意味が込められている言葉です。

そんな、桜雲臺精神というスピリッツと、花高をこよなく愛してやまない先生方の温かい指導、そして保護者や同窓生、地域の方々の支援によって、生徒の活動がより強く促進され、成果に結びついているのだらうと思います。

終わりに、本校の初代校長である佐藤昌（さかり）先生の言葉を紹介しながら、「花高生」へのメッセージといたします。

佐藤先生は、「**中学教育はりっぱな公民を造ることが目的である**」と述べています。中学教育とは今でいう高校教育と考えてよいでしょう。

公民的資質とは、民主的、平和的な国家・社会の形成者としての自覚をもち、自他の人格を互いに尊重し合うこと、社会的義務や責任を果たそうとすること、社会生活の様々な場面で多面的に考えたり、公正に判断したりすることなどの態度や能力である、と定義されています。



そして、こうした公民的資質は、これからの国際社会において、日本人として主体的、創造的に生きていくために必須な素養であるとされています。

現代は、地球規模で人や物や情報がつながり、人工知能が高度に発達していく社会であります。その一方、生産年齢人口の減少が深刻に進み、また、世界ではテロや紛争が絶えない状況が見られます。そのような社会状況の中において、佐藤昌先生の言葉を具現化するために、私たちは、次のような教育実践を目指していきたいと考えています。

それは、教室という限られた空間で、教師から、一方向的に注入される知識を受け取るという受け身型の学びではなく、自ら課題を見つけ、失敗を恐れず、主体的、能動的に学び続ける姿勢を育てるということです。

そして、「他者とともに、他者にたよらず」の精神で、あらゆる場で獲得した知識や情報を、自ら問い直し、あるいは、他者と交わり考えを深め合う中で、社会の中で活用される知識、新しい価値を生みだしていけるような能力を培うことです。



花高生は、このような公民的資質と桜雲臺精神をもって世界を見つめ、大きな理想と志を抱くと同時に、一方、自分の周囲を見回し、そこにある小さな幸せや、横たわる課題に気づき、自分ができる「何か」を見つけ、一歩前に踏み出せる人、利他の心を持って、隣の人に幸せを与える人になって欲しいと願っています。

2017年4月1日